

琉球大学学術リポジトリ

木のタネの採り方

| | |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-05-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大山, 保表 メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/20.500.12000/19853 |

ンクイムシ、ハマキムシなどに対し、パラチオン剤に劣らぬ殺虫効果があり、しかも人体毒性はその一〇分の一程度である。

つかいかた

二〇%乳剤を五〇〇―一五〇〇倍にうすめて散布する。

イネニカメイテユウ(四〇〇―五〇〇倍)、イネカラバエ、イネハムグリ(一〇〇〇倍)、クロカメムシ(五〇〇倍)、カイガラムシ(五〇〇倍)、モモコフキアブラムシ、アオムシ、テントウムシダマシ(五〇〇倍)、果樹のアカダニ(二〇〇倍)など。

十一、アカール

アカダニの卵、幼虫、成虫すべてによくく薬

木のタネの採り方

戦禍や震災復興材の伐り出しで、すっかり緑を失つて裸になつた山野を大面積かゝえている琉球においては、国土の保全、防風や防潮その他の災害防備林を兼ねて、島内用の一般用材や薪炭材の需要に応ずることは勿論ながら、年々急速に増大しつつあつて需給のアンバランスと材価の値上りが予想される日本々土のバルブその他の工業原料用材の需要などにも対応して木材生産の増大を図るためにも、年々相当面積の造林が行われねばならない現状にありますので、毎年多量のタネが造林用に使われることとなります。

ところで林の生産量の大小は、タネの素質や品質の良否に大きく支配されることとなります。

剤でいわゆるアカダニ専用である。アカダニ以外の害虫にはあまり効果がない。その他ダニ用にはサツピラン、アラマイト、DPNなどがある。

十二、浸透性殺虫剤

殺虫成分を植物の根、茎、葉などから吸収させ植物体に透過させて害虫が寄生し得ないようにするもので、アブラムシ、アカダニ、カイガラムシなどのような吸取口をもつた昆虫の駆除には有望これは食用作物特に蔬菜、果樹などに向けた場合、人体にどう影響を及ぼすかという点に問題が残されている。

その種類にはシストツクス、ペストツクスなどがあり、それらを改良したメタシストツクス、イソペストツクスは人体毒性が少なく実用化に一歩

生産量の大きい経済価値の高い林は素質や品質のよいタネによつて養成された健全な苗木の養成に始まりますので、今後の造林に当つて、よりよい林を造成して行くための木のタネの採り方について必要な点を述べることに致します。

一、タネを採る木の選び方

気候及び土壌が同じであるか、又は出来るだけ相似た地域において

A、林全体の生育が揃つて特に良好な壮令以上の林及びその林の中にあつて特に生育の優れた樹

B、壮令以上の一般の林にあつて、ずば抜けて生育のよい樹。

A及びBに該当する樹を選んで母樹に指定し保護して造林用のタネを採集する。

樹令、地形及び土壌の関係がほぼ相似ていることを条件として、林の中の個々の樹を注意深く観

前進を示している。

その他の薬剤

ネズミの防除剤としてアンツィー、ワルフアリン(デスマア)、トモリンなどがあり、又除草剤として二・四・D、アイビシー、エムシービーなどがあるが、ここにおいてはこれらについてはふれないことにした。

はじめのべましたように、私たちは農薬を使う前に、まずその病菌が、あるいは害虫がいかなる種類のものであるかを見きわめ、それを防ぐにはいかなる農薬が適するかを慎重に考えて使うべきでむやみやたらに農薬を使わないよう心すべきでしょう。(唐島化学工業株式会社技師・小向井昭郎氏講演より)

察した場合、A及びBに相当する樹を人工林及び天然林の中で選び出すことが出来ましょう。

樹木類のタネは、ほとんどが個木相互間の授精によつて結実することになりますので、遺伝子の組み合わせが極めて複雑で、遺伝型は個々の樹について、それぞれ異なるものと考えられておりますがAに該当する生育の揃つてよい林では母系樹及び父系樹の遺伝型が共に揃つて生育がよいことになりすし、Bに該当する樹も母系樹の遺伝型は生育がよいことになりますので、A及びBに該当する母樹より採集されたタネから発生した個樹は一般に生育がよいこととなります。

又同じ樹種間でも地域品種と称して、それぞれ異つた気候因子と土壌因子の組み合わせによる各種の異つた環境条件に対して生育のよい適品種があることとなりますので、造林地と似寄つた環境条件でよい生育を遂げておる母樹のタネから育てた

苗木は、よい生育を期待出来ることになります。

又木材生産の対称である幹材の成長量が出来るだけ良好であることが造林される樹の遺伝型として最も望ましいこととなります。幹材のよい成長量は、樹高及び直径のよい成長量の結果でありますが樹によつては樹令の若いころから開花結実し従つて幹の成長量は悪いものがあります。かかる幼母樹のタネから育つた樹は、幼令の開花結実や幹材成長の悪い性質が遺伝することになりますので、幼令時期においては樹体内養分を専ら幹材の良好な成長に当て、相当の樹高成長を遂げた樹令以後においてタネを結ぶ生育のよい遺伝型の樹令より造林用タネを採ることに力め、幼令母樹産のタネは厳にさげねばなりません。もつとも旺盛な樹高成長を遂げる樹令に差がありますので、相当に樹高成長を遂げたと思われる樹令以上の樹を母樹に当てることとなります。

モクマオウ、センダン、タイワンハンノキは一年生前後以上、リウキウマツ、イヌマキは二〇一五年前以上、テリハボク、フクギは三五―四〇年生以上を母樹の樹令としたい。

二、充実して活力の大きいタネを採りましょう

結実量が多く且つ種実が割に大きくて、揃つてゐる種実をつけた樹を選んでタネを採りましょう。結実年令に達した樹の結実の分量は年によつて豊作年、並作年及び凶作年があつて、その周期の年数は樹種によつて差があることが知られ、結実の豊作による樹勢回復期間の樹種による差と考えられております。

年によつて結実量に豊凶があることは、気象条

件と樹体内貯蔵養分の多少とに關係することが知られておりまして、樹体内養分の〇/〇率が大きいと花芽の分化が盛んになつて、翌年、樹種によつては翌々年に豊作年となつて多量に結実し、個々のタネも割に大きく、よく揃つていて内容も充実した活力の大きいタネが多量に生産されることになつております。

樹体内養分の〇/〇率と結実の關係は、樹の炭素同化作用や窒素同化作用の盛衰に關係をもつ氣象条件や、地中養分条件や母樹体内養分の流転などについて枝の剪定や間伐、施肥、養分の使い分け、樹幹への針金巻込みや環状剥皮その他の人工的操作調節を行うことによつて個々の樹の結実を促進し豊作にすることが応用されておりますし、又同じ森林内において同じ樹種間で結実の分量に個樹による差がありますので、一項A及びBに該当する生育のよい多数の母樹間でも自然の条件の下で、各母樹への外的作用の差が個々の樹木の樹体内養分の相異を来して結実分量の差を生ずるものと考えられる。

ところで結実が多いことは個樹の樹体内養分量が多くて結実に好条件で、従つて個々のタネも揃つて割に大きく、内容も充実して活力も大きい良いタネが得られることとなりますので、造林用のタネは豊作年のタネや結実の割に多い母樹から採つたタネを用いねばならない。

三、成熟したタネを採りましょう

タネが形態的に完全に成熟してはいや子葉も後熟によつて完全に成熟し得る採取適期にタネを採れば、内容も充実して活力も最も大きいタネを得ることになります。

採取適期のタネは球果や果実や莢の色沢によつて鑑別が出来ますので成熟期が迫つたところになれば、よく見まわつて適期に採取すればよいことになりません。

未熟タネは発芽不能か又は活力が劣ることになりますし、又タネの含有水分量が多いので腐敗の原因にもなります。

過熟のタネは樹上で雨露にさらされて品質を悪くするおそれのある外、自然に飛散したり湿つた樹下に落ちて採り損ねることになります。

リウキウマツ、モクマオウ、タイワンハンノキなどは成熟の進むにつれて球果が淡緑色―濃緑色―紫かつ色に變つた時期に、イヌマキは果托が充分にほう大し成熟して紫色に變つた時期に、センダンは淡緑色―濃緑色―黄かつ色に變つた時期に、テリハボクは緑色―緑紫色に變つた時期に、フクギは緑色―黄色に變つた時期に、ソウシジユは莢が緑色―かつ色―暗かつ色に變つた時期がそれぞれ採取適期であります。(つづく) (大山 保表)

発行所 琉球大学農家政学部
発行人 鳥袋 俊一
印刷 沖繩タイムス社
指令第一九八〇号
一九五八年六月二十五日印刷
一九五八年七月一日発行